



愛知県豊橋市を中心に活動する「豊橋百億人（のうじん）」は、さまざまな品目で経営するメンバーの農家自身が、消費者に直接アピールすることを目的に結成した。2009年6月の発足以降、マルシェの開催・参加や地域の若者との意見交換、グループ歌を作るなど活動は多彩だ。活動を応援する「サポーター制度」を設けるなど、消費者との継続した関係を築く仕組みもつくり、個性の見える農産物販売を目指す。

月一回の会合に参加でき、農業への思いや取り

## 愛知県 豊橋市 豊橋百億人



オレンジガーデンでレモンオイルを掛けたカレーを試食するメンバー（愛知県豊橋市で）

# 品目誇り 多彩にPR

組み姿勢など事務局が定める100項目以上をクリアした人だけをメンバーとして認める。現在、毎月1回の会合では主に、米やトマト、レモンなど、メンバーが個別に行う生産者ら15人が「イベントへの参加状況や、

今後の展開を話し合う。ウストラの肉と卵の販売を手掛ける東海有機物社長の内田貴士さん（37）は「野菜や果樹、花など、いろいろな作物の経営者に興味を持ってもらえ

が生まれることで新しい発想が生まれる」と実感する。マルシェで行うイベントとして考え、昨年開いた「ウストラの卵割り世水貴裕さん（42）は「豊橋の農業は規模に比べて知名度が低い。若者に誇りを持ってもらうための

今年2月には、豊橋市内のモード居酒屋で若者

### 概況

豊橋市は愛知県南東部に位置する。キャベツやハクサイ、イチゴなどの野菜の他、花、果樹など農業が盛ん。



市ではトマト・ミニトマト、スナッパエントウ、ウストラを戦略品目と位置付け、重点的にPRを行っている。

## 感性磨き地域力アップへ

「取り組みにしたい」と話す。

豊橋百億人の次の展開は、メンバーの農作物を使った飲食店を「認定店」としていくことだ。

4月中旬には、JR豊橋駅近くのレストラン、オレンジガーデンでメニュー第1号となる「百億人カレー」が登場した。メンバーが作ったレモンを加工したレモンオイルを掛けて食べる、深い味わいが特徴だ。

食材の一つの豚肉「田原ポーク」を生産する株式会社ファーム社長の鈴木美仁さん（47）は、個人でもレトルトパックのカレーを販売しているが、「自分は豚のごとしか分からないが、他の食材との組み合わせで広がりが見える」という。今後も地域に浸透する活動を続けていく。